

ハバロフスク国立経済法律大学



[帰国報告書 2018.09~2019.07]

大河内みとな

1. 年間業務予定

2018年

- 8月28日 着任
- 9月3日 授業開始
- 10月5日 極東・東シベリア弁論大会（太平洋国立大学にて）
- 10月6日 日本語教師セミナー
- 11月初旬 前期中間成績評価
- 12月下旬 前期期末試験
- 12月28日 前期終了

2019年

- 1月16日 4年生授業開始
- 2月18日 1~3年生授業開始
- 4月3日 4年生試験、授業終了
- 4月18日 東シベリア地域弁論大会（イルクーツク国立大学にて）
- 4月19日 日本語教師セミナー、カラオケ大会（同上）
- 4月中旬 後期中間成績評価
- 5月7日 ハバロフスク日本語弁論大会（太平洋国立大学にて）
- 5月24日 ハバロフスク日本語カラオケコンテスト（本学にて）
- 6月中旬 後期試験、授業終了
- 7月6日 離任

2. 赴任校の概要

2.1 大学概要

- ◆ 大学名 Хабаровский Государственный Университет Экономики и Права(ХГУЭП)
Khabarovsk State University of Economics and Law (KSUEL)
ハバロフスク国立経済法律大学
- ◆ 学長 Плесовских Юрий Гертурович
Plesovskikh Yury Gerturovich
プレソフスキフ・ユーリー・ゲルトウロヴィチ
- ◆ 所在地 Россия, 680042, г. Хабаровск, ул. Тихоокеанская, 134
Tikhookeanskaya Str.134, Khabarovsk city, 680042, Russia
- ◆ 連絡先 Tel : +7-421-222-4879
HP : <http://www.ael.ru>
- ◆ 国際部 Маловичко Татьяна Владимировна
マラヴィチコ・タチアナ・ウラジミロヴナ
Tel: +7-421-276-5449

2.2 カフェドラ、学部、学科

- ◆ 所属先 Кафедра иностранных языков и межкультурной коммуникации
Department of Foreign Language and Cross-cultural Communication
外国語・異文化コミュニケーション学科
- ◆ 学科長 Пак Светлана Михайловна
パク・スヴェトラーナ・ミハイロヴナ
Tel : +7-914-772-9824

2.3 日本語コースカリキュラム

- ◆ 日本語クラス設置年
1996年
- ◆ カリキュラム

第一外国語、第二外国語として日本語の授業がある。多言語によるビジネスコミュニケーションができるようになることを目的としている。カリキュラムは報告者の赴任前に現地日本語教師が1年分をまとめて提出した。

◆ 日本語履修者とレベル

学年	学生の専攻※ ¹	人数	日本語レベル（後期終了時）
4	МЭ	11	中級前半
3	МЭ	2	中級
2	МЭ	2	初級後半
	ТД	9	初級
1	МЭ	6	入門
	ТД	18	入門
合計		48	

※ 1 МЭ…Мировая Экономика（国際経済専攻）、ТД…Таможенное Дело（税関専攻）

◆ 日本語教師数 2名（報告者+ロシア人教師）

◆ 学生の卒業後の進路

製造業、銀行など

3. 日本語教育業務

3.1 学年、年間のシラバス

4年生	
教材	ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』
活動	日本、ロシア社会問題について話す 日本の生活を知る ドラマの内容について問題に答え、話し合う 会話のフレーズを聞き取る
評価	エグザミン：毎回配る問題プリントへの回答により評価
所見	クラス内でのレベル差が初級から N2 レベルまで大きくバラツキのあるクラスであった。クラスの雰囲気もよく助けあいながら学習を進めることができるクラスであったため、報告者が用意した問題や、ドラマの内容についても活発に会話ができ、日本語に親しむことができたと思う。

3年生/M3	
教材	「初級で読めるトピック 25 初級Ⅱ」 ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』、「擬音語・擬態語」 映画『僕たちと駐在さんの700日戦争』
活動	短い文章を読み、内容理解、議論する ドラマを用いた活動については4年生と同様 ドラマ、映画などで使用されたオノマトペを中心に教科書を用いて学習 試験期間前に映画鑑賞
評価	前期（ザッチョット）：テーマを与え作文 後期（エグザーミン）：毎回配る問題プリントの回答により評価
所見	前期の段階では4人ほどのクラスで中級前半であったため、みんなの日本語の教材を用いた。読むことはできるが、発話は難しいような学生も自分のできる範囲のことは真剣に取り組み日本語を学習することができた。後期に入り、学生が2人になった。この2人は中級レベルに到達している学生であるため、学生の要望もあり、生教材を使用した。こちらが選んだ教材であったが、毎回楽しみにしてくれ、日本語の学習だけではなく、自分たち自身の話まですることができ、良い時間となった。

2年生/T1	
教材	『まるごと A1』理解 映画『魔女の宅急便』『忍びの国』
活動	『まるごと』の理解を使い既習文法の復習、新しい文法の学習 会話の練習 学習テーマ、文法を使った作文
評価	前期（ザッチョット）：テーマを与え作文 後期（エグザーミン）：『まるごと』の内容に沿った試験
所見	日本語の学習には熱心であるが、実力が追い付いてきていないのが現状であった。前期は『まるごと』を用いて復習に徹した。ペアワークなどよりも、個人作業を好む学生が多かったため、『まるごと』も活動の使用をやめ、理解のみを使用することにした。後期からは新しい文法を含む内容も学習した。復習よりもこちらの方がより熱心に授業に参加してくれるようになった。授業数も少ないため、実践的な内容にこだわらず、ロシア人教師と連携を取り、文法学習を進めていけばよかったと思う。

2年生/M3	
教材	『まるごと A1 A2』理解、みんなの日本語 漢字 映画『魔女の宅急便』『僕たちと駐在さんの700日戦争』
活動	『まるごと』の理解を使い既習文法の復習、新しい文法の学習 会話の練習、漢字学習
評価	前期（ザッチョット）：テーマを与え作文 後期（ザッチョット）：テーマを与え作文
所見	<p>前期は出席率が悪く、来ても大幅に遅刻することが多かったため、全員がそろわない時には、漢字学習を行い、ペースを合わせた。3人の小さいクラスであり、レベルもほぼ同じであったため、全員がそろえばグループワークも活発に行うことができた。日本語をコツコツと勉強するより、活動のなかから学んでいくスタイルのクラスであると思われた。</p> <p>後期になると、2人が退学または休学し、新しく中級レベルの学生が入ってきた。初級の学生と中級の学生の2人のクラスになった。授業運営が非常に難しかったが、2人がそろえることは数えるほどしかなく、ほぼ中級の学生のみでの授業となった。この学生は学習意欲が高く90分ほど日本語の会話をしているにもかかわらず話が尽きることはなかった。</p>

1年生/M3	
教材	ひらがな、カタカナ自作教材 『まるごと A1』理解・活動 『げんき』 『J-BRIDGE beginner vol.1』 映画『魔女の宅急便』『すべては君に逢えたから』
活動	『まるごと』の理解を使い既習文法の復習、新しい文法の学習 学習テーマに沿った作文、ロールプレイ
評価	前期（ザッチョット）：テーマを与え作文 後期（ザッチョット）：まるごとの内容に沿った試験
所見	<p>学習意欲が高く授業を進めやすいクラスであった。課題を与えれば頑張るクラスだと思い、後期から J-BRIDGE も始めたが、難しい問題になるほど集中してどんどん解いていた。毎回短い作文を作って読んでもらうようにしており、その日学習した内容を使い書くことができた。</p>

1年生/TJ	
教材	ひらがな、カタカナ自作教材 『まるごと A1』理解・活動 『げんき』 映画『魔女の宅急便』『僕たちと駐在さんの700日戦争』
活動	ひらがな、カタカナのディクテーション 『まるごと』の理解を使い既習文法の復習、新しい文法の学習 ゲーム
評価	前期（ザッチョット）：テーマを与え作文 後期（ザッチョット）：まるごとの内容に沿った試験
所見	ひらがな、カタカナの習得が遅かったため、前期の間は毎回授業の始めに練習を行った。大きいクラスであることを利用し、文字の学習や、数字などの学習はゲーム形式で行うことが多かった。ゲームをしても盛り上がる雰囲気のクラスであり、順調に学習を進めることができた。 後期からは出席しない学生が増え、日本語に対する意欲がある学生が残ったように思う。このような学生に対しては積極的に新しい文法や単語を教えることができた。

3.2 反省点と今後の展望

それぞれクラスの雰囲気に合わせた学習を見極めるまでに時間を要してしまったことは反省点である。特に日本語を学習したいと思っている1年生の学生から、いつになったら今使用している教科書が終わるのか、自分たちはどのくらいの期間でどのレベルまで達することができるのかという質問があった。このような不安をあおってしまったのは反省すべき点であり、ロシア人教師とより詳しい授業計画を立てるべきだったと思っている。今後は日本語により興味を持ってもらうことができ、またその意欲を失ってしまわないような学習を提供することが求められていると感じた。

4. その他の業務

4.1 弁論大会関係

- ・東シベリア弁論大会（イルクーツク）質問員、翌日の教師セミナーでの発表
- ・ハバロフスク弁論大会の質問員、出場学生の指導

4.2 勤務先大学

- ・オープンキャンパスで日本語の紹介
- ・学内紀要への論文寄稿

4.3 その他

- ・日本語能力試験（試験監督）
- ・ハバロフスク日本センター会話クラブ参加

5. 青年交流

- ・図書館で開催された子ども囲碁大会での書道コーナー
- ・コルフォフスキ村で行われた日本イベント参加（書道）
- ・コスプレイベントで折り紙、書道コーナー
- ・報告者が通っていた語学学校のクリスマスイベントで折り紙教室

6. 任地の生活事情

6.1 電気・水・温水

停電はなかった。温水は年に2回、9月と5月に一週間程度停止。6月にもお湯の供給が止まったが、原因不明である。セントラルヒーティングの水道管から水漏れが起こったが、すぐに修理をしてもらえた。

6.2 衣食住

自宅は町から離れたところにあり、買い物には少し不便。近所の歩いて行ける範囲にスーパーは3軒ほどある。町では日本や韓国のお菓子、インスタント食品を買うこともできる。物価は日本より高い。

6月現在、自宅でのインターネットは使用不可であり、室内では携帯電話の回線も不安定である。

住居は古いためか、まわりの生活音が非常に気になった。

6.3 交通

主な交通機関はバスやトランバイである。30～40分ほどバスに乗れば町の中心部に行くことができる。タクシーも安全に安く利用することができた。

6.4 治安状況

ハバロフスクは比較的安全な街だといえる。危険なことを経験することなく過ごすことができた。ただ、家が町の中心部からバスで30分ぐらいのところであり、暗くなってから帰ると人通りもほぼなく、外灯もないので気を付けた方がいい。

町から家に帰るバスは22時前が最終なので、タクシーを使って帰ることも多かったが、タクシーの運転手とのトラブルなども特になかった。

7. 終わりに

ハバロフスクでの生活は不安であったが、太平洋国立大学の田中教師や、領事館の方々、前任者から続くご縁のおかげもあり、赴任中は有意義に過ごすことができた。すべての方々に感謝を申し上げたい。

また、“ロシアにおける日本年、日本におけるロシア年”というタイミングで日本語教師としてロシア国内で勤務できたことを非常に光栄に思う。当大学においては学習者のモチベーションをいかに盛り上げ、保つかということが最大の問題ではあるが、ハバロフスク国立経済法律大学における日本語教育がより発展し、充実したものになることを願っている。

